



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2021年
12月28日
発行

第117回

「2022年のびっくり10大予想」

初めに

今回は年末恒例のびっくり10大予想です。初めて読む方のために、簡単に説明しますが、これはその年に起こりそうな想定外の出来事を予想するもので、米大手証券モルガンスタンレーのエコノミスト、バイロン・ウィーン氏が始めたものです。ウィーン氏は「サプライズ」を「一般には1/3の生起確率しかないと思われるが、自分にとっては50%以上である事象」と定義していますが、私は「比較的可能性が高いリスクシナリオ」位の気持ちで作っています。まず最初に、前回の予想の結果を振り返ってみます。

【2021年のびっくり10大予想 振り返り】

	予想	振り返り	評価
1	東京五輪はコロナ対策を徹底した上で実施。問題なく大会を終えたことが評価され日経平均は3万円越え。	→ 五輪は成功 日経平均は3万円越え	○
2	双子の赤字でドル下落、1ドル=95円に。	→ ドルは対円で上昇	×
3	巨大IT企業に政府の圧力強まる。バイデン米政権はGAFAsの分割を決定。中国でもアリババなどIT企業への規制強化の動き強まる。	→ 圧力強まるが分割には至らず	△
4	21世紀の新市場は宇宙、宇宙関連株が上昇。	→ 注目されるも上昇には至らず	△
5	「世界の果てまでワクチンを」COVAXファシリティが機能して中所得国・低所得国でも新型コロナは峠を越える。	→ ワクチン接種は進むも オミクロン株など懸念残る	△
6	2021年も小型株ブーム、東証マザーズは2年の連続の大幅高。	→ 東証マザーズ大幅安	×
7	バイデン増税と、GAFAsバッシングで2021年の米企業業績は減益に	→ 増税進まず業績好調	×
8	トランプ退陣で米関税引き上げリスク後退、新興国通貨が上昇	→ トランプ退陣も新興国通貨は下落	△
9	常勝軍団に土、福岡ソフトバンクホークス日本シリーズ敗退で福岡関連株やソフトバンクが売られる	→ ソフトバンクホークス日本一逃す	○
10	絆が欲しいコロナ禍の芸能界で松坂桃李さん、戸田恵梨香さんに次いで大物カップルが続出。	→ 新垣結衣さん&星野源さん 菅田将暉さん&小松菜奈さん 有吉弘行さん&夏目三久さん等 大物芸能人がご結婚	○

○は「予想的中」、×は「予想実現せず」、△は「どちらともいえない」です。昨年の予想は、3勝3敗4分となりました。

東京五輪については懸念する方が多かったと思いますが、実際には大きなトラブルなく開催することが出来ました。また、日経平均も3万円を一時的にですが超えました。これは自分としても嬉しいことでした。

また、格差是正というものを昨年の大きなテーマとして考えていたわけですが、米国や中国でそうした動きはあったものの、それほど前進には至らなかったことが残念です。しかしこの問題は来年も注目されると思っています。

10の「芸能界で大物カップル続出」は明るい話題を入れようと思ったのですが、予想以上にそうした話があったのは嬉しいことでした。

ここからは来年の予想について述べます。

1. 聞くだけ内閣早期退陣

不安定感が付きまとう岸田内閣、株式市場でも自社株買いに関する発言で関係者をひやひやさせています。このままでは参院選で大敗、早期退陣ということもありそうです。その場合次期首相には菅前首相が有力と見えています。

2. 好業績・割安感から日経平均は初の4万円超え

今年の日本株は期待外れでしたが、好業績持続や割安感、他国に比べて新型コロナウイルスの被害が小さいことなどから、来年の日経平均は4万円超え、大幅上昇を期待します。

3. ファイヤーファイターパウエル、果敢な金融引き締めで早期のインフレ沈静に成功

もともとハト派と見られていたパウエルFRB議長ですが、来年の利上げを表明するなどここに来てタカ派色を強めています。このままいけば、思い切った金融引き締めにより早期のインフレ沈静に成功ということもありそうです。パウエル続投を決めたバイデン大統領にとっては支持率浮揚のきっかけになるかもしれません。

4. 今度はフードショック!? 中国の穀物在庫が急増

12月19日付の日本経済新聞では、主要穀物の世界在庫の過半が中国に積み上がっていると報じられました。こうした状況が続けばオイルショックならぬ中国による「フードショック」を警戒する必要もありそうです。

5. 2千兆円の壁動く? 日本人の安全志向に変化の兆し

日本の個人金融資産は2千兆円近くに膨らんでいますが、大半は預金など安全資産です。外国人からもなぜ日本人はもっと株を買わないのかと不思議がられています。しかし最近はこの傾向に変化が見られます。若い人の間で株式や投資信託、特に米国のものに投資する人が増えているようです。来年はこの傾向が加速し、それが日本株を押し上げることもありそうです。

6. キーワードは地産地消 アパレル生産拠点日本に回帰

アパレル業界では国内への生産拠点移転の動きが広まっています。ワールドは今後3-5年で大半を国内生産にする予定、TSIホールディングスも米沢や都城の自社工場で生産拡大を検討、現在10%程度の国内生産比率を30-50%に高めたいとしています。理由は現地の人件費上昇、或いは今回の混乱を見てのサプライチェーンの見直しなどです。既にマスクなど国内に製造拠点を移した事例はありますが、今後この地産地消の動きは日本だけでなく世界的に拡大しそうです。

7. インバウンド再び

インバウンドは安倍内閣の成長戦略の一つです。大勢の外国人が日本を訪れ景気にも好影響を与えました。来年はインバウンド再来の年になるかもしれません。米国の利上げにより円安になると思われること、新型コロナウイルスの被害が少ないこと、また2025年に万博を控えていることなどが理由です。インバウンド再来となれば株式市場への効果も期待できそうです。

8. 異次元緩和が終了 インフレなれど非難高まる

異次元緩和は何だったのか。デフレ脱却を掲げた日銀の異次元緩和ですが、いつまで経ってもインフレにはならず、インフレ率が上がれば困った困ったの大合唱です。日銀に批判が集中、終了に追い込まれることもありそうです。

9. サッカーワールドカップで日本が初のベスト4進出

来年はカタールでサッカーワールドカップが開催されます。日本は予選で苦戦しておりまだ出場は確定していませんが、経験則的には予選で苦労した方が本戦で良い結果を出しているような印象があります。日本代表の健闘を期待しています。

10. 施設から家庭へ 国が里親支援を強化

親と暮らせない子供は全国で4万5千人います。子供が成人するまで預かって養育する里親制度がありますが、海外と比べて日本は遅れています。そこで国は里親制度の普及に乗り出し、里親支援機関の充実などを打ち出しています。来年は「施設から家庭へ」の年になるよう願っています。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!

